造網性クモを襲ったコサラグモ類―その習性はクモ食（Araneophagy）とみなせるか?―

○鈴木佑弥１（１筑波大・生命環境・生物）

コサラグモ類（以下コサラ類）の多くは土壌表面のくぼみや草本の根元などに無粘性のシート網を張り，もっぱらトビムシなどの小昆虫を捕食する造網性種とされてきた．しかしながら，鈴木（2014，2015，未発表）はコサラ類と思われるクモ４種が，野外及び飼育下で他の造網性クモを捕食したという例を確認した．特に，クモによる他の造網性種の網への侵入および網主の捕食は，特殊化された戦略を有する一部のスペシャリスト（araneophagic species）に特化しており，それ以外の種では稀な習性であるとみなされてきたため，コサラ類におけるクモ食いにもそのような特殊性が確認できるか否かを検証する必要があると考えた．

　コサラ類のクモ食いに関する第一の検証として，コサラ自身の網上と他種の網上という異なる状況下における採餌行動の性質（攻撃様式，移動速度，体サイズ比と捕獲率など）を記録，比較を行い，そのクモ食い行動にどの程度の特殊性が認められるかを評価した．